

# 社民党自治体議員団全国会議・第6次研修・視察団報告



視察国 デンマーク王国

期 間 2017年4月18日～23日

## 目 次

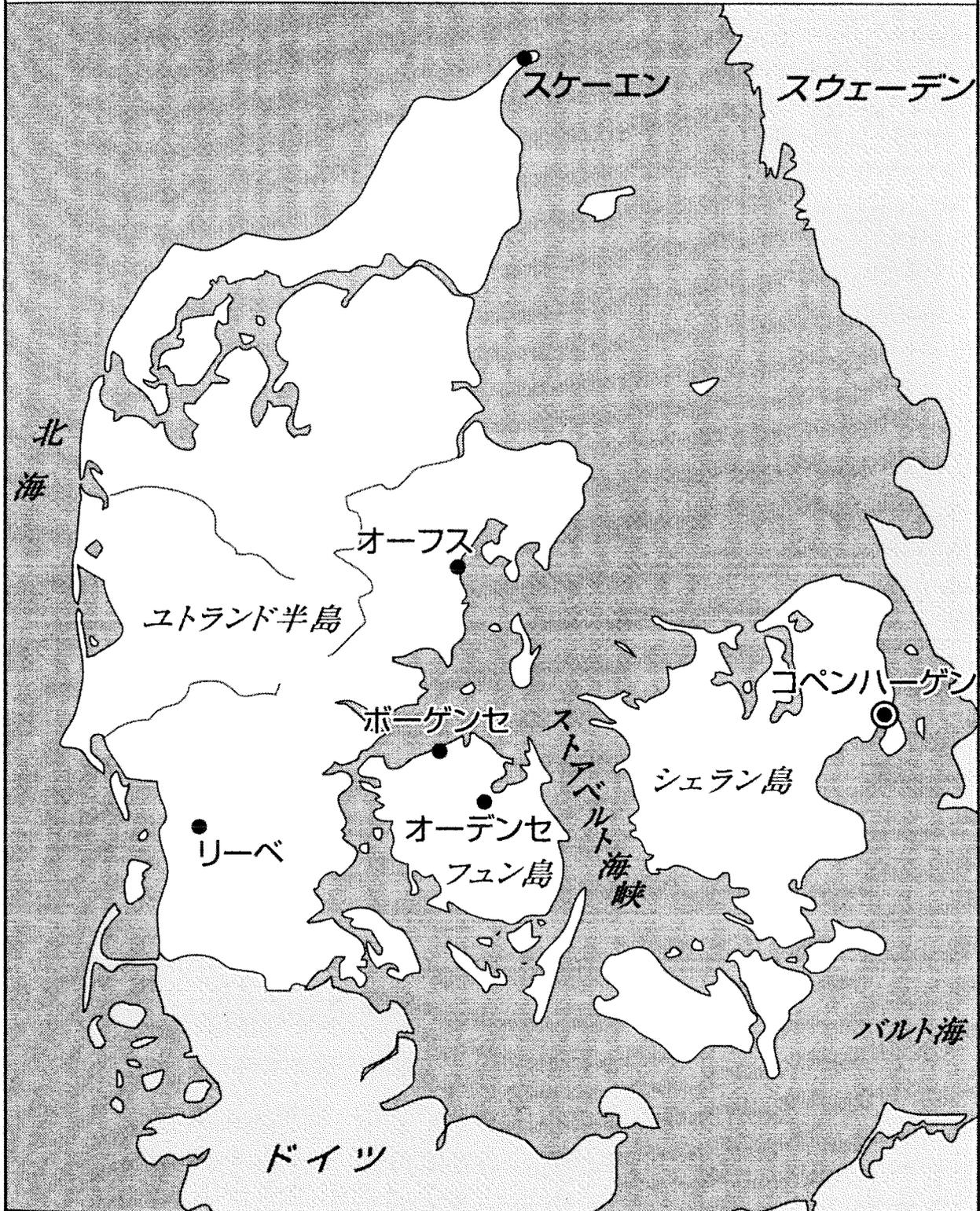
■ 研修日程表 .....	1
■ 地図 .....	2
■ 参加者の感想 .....	3
◇ デンマークの社会福祉システム	江藤 卓朗
◇ 高齢者福祉センター視察	四元 悦子
◇ 市議会議員との懇談	大森 忍 (鹿児島市議)
◇ 北フュン市長との会談	高田 良徳 (香川県議)
◇ デンマークの市長のお話してから	道免明美
◇ 児童施設視察 (森の幼稚園)	赤星 貴子
◇ 国民学校視察	竹本 敏信 (香川県議)

## 研修日程表

日数	月 日	現地時間	概 要
	4/17(月)	18:00	成田東部ホテルエアポート集合 結団式 <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">成田泊</span>
1	4/18(火)	8:00 11:10 15:30 19:30	前泊ホテル出発 出国手続き、空路、コペンハーゲンへ 着後、専用車でボーゲンセへ(2.5h) ノフィホルコール「モテキ寮」着、 <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">ボーゲンセ泊</span>
2	4/19(水)	午前 午後	朝食後、研修日程スタート ①デンマークの社会福祉システム(講義) 昼食後、視察へ ②高齢者福祉センター 夕食後 ③北フヨ島市議会議員との懇談・質疑応答 <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">ボーゲンセ泊</span>
3	4/20(木)	午前 午後	朝食後、視察へ ④自治体行政施策のヒアリング(北フヨ島市市長) 昼食後、視察へ ⑤森の幼稚園視察 夕食 <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">ボーゲンセ泊</span>
4	4/21(金)	午前 午後	朝食後、視察へ ⑥国民学校(日本の小中学校)視察 昼食後、コペンハーゲンへ移動 市内ホテルにチェックイン 夕食は各自 <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">コペンハーゲン泊</span>
5	4/22(土)	9:00  13:35 15:45	朝食後、ホテルチェックアウト コペンハーゲン市内見学 昼食 風力発電所遠景見学 コペンハーゲン空港到着、出国手続き 空路、成田空港へ <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">機中泊</span>
6	4/23(日)	9:35	成田着、入国手続き 解散、お疲れさまでした！

# デンマーク地図

●首都 ●都市



出典： 錢本隆行 「デンマーク流『幸せの国』のつくりかた」 明石書店

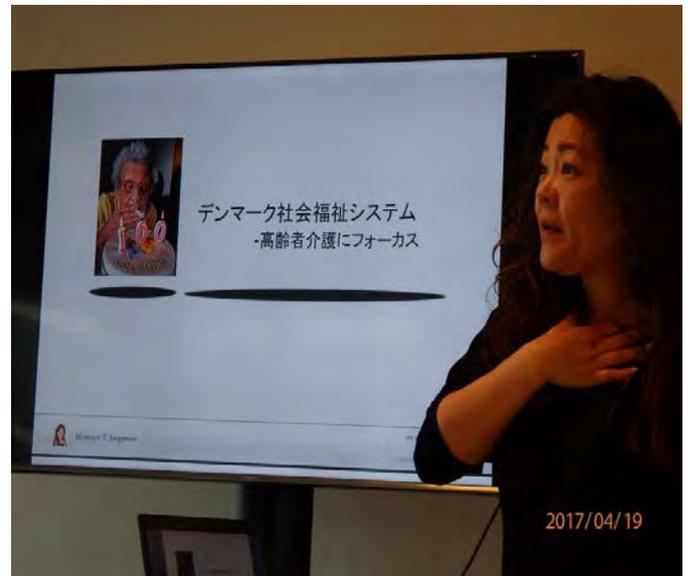
## デンマークの社会福祉システムについて

江藤 卓朗

～講師、モモヨ・T・ヤーゲンセンさん(短期研修部代表)のお話～

### (1) 自己紹介

- 27年間デンマーク在住。ここの教員として17年勤務。
- デンマークでは、基礎医療が在宅でもできるように、介護と医療が密着して20年以上の年月が経つ。デンマークでは、介護の仕事は資格がないと出来ない。
- 社会保険介護士であるが、精神医療の指導員も行き、現場では人材教育を担ってきた。
- デンマークでは、介護は国が運営している。そこで働いている人は、公務員。その人たちにどういう価値観がないといけないか、国の考え方を教え込んでいる。
- 2000年に千葉さんから教員に誘われ、オーデンセ教育大学に入り直し、2003年に専門職を教える教員免許を取った。
- 市で必要な認知症コーディネーターの資格は、2009年に取る。
- 現場でどの様な理論が必要で、どの様に実践化されなければいけないのかが大切。



### (2)、講義内容

#### イ) 介護・福祉・高齢者対応等について。

- 日本に行って、「その人らしく、……」「人の尊重、……」と言うパンフレットを見た。出来ていない事を書き、羅列している事が多い。(スタッフは)Aさん・Bさん、それぞれの「その人らしさ」を言えないといけないし、その為に実践してもらわねばならない。現場スタッフもCMもその視点を持つべき。それがなかったら、「理念」やケアプランに書いては行けない。
- 日本では「デンマークは福祉が進んでいる」と言うが、そうではない。戦後、日本は『経済大国で⇒大成功した国』効率性経済性を追求してきた国。デンマークは、『生活大国』を追求してきた国。そこにおける失ったものは、それぞれある。遅れている、すぐれているという感覚は、おかしい。日本独自の物を作るべきである。
- デンマークは、2010年ナショナルプラン。2015年プランの見直し。日本

は、2015年オレンジプランの見直しが出た。デンマークの真似は出来なくても、私としては、日本への提言・戦略に対するインプットは出来ますよとの事。

- デンマークは、幸福度 NO1 だが、頼るもの・事・人がある事、信頼度が大きい。信頼度と安心感が、NO1 に繋がっている。オランダのハピネス博士が一番の情報持ち。
- モモヨさんは、所得税 44% を納めているが、高い税負担をして還元(見返り)のバランスが取れていなかったらみんな怒る。国民の生活と政治のからみにみんな注目している。私たちのお金を使って、どんな政治をしているのか興味を持つのが当たり前。デンマークの政治家達は、透明な政治をするしかない。デンマークの国会は毎日 TV 中継され、「議会は市民の為のもの。すべてオープン。」「政治は、自分の生活に関わっている」と言う認識が高い。デンマークの総選挙では、86、87%の投票率が普通である。
- 日本は、一人当たりの貯蓄額が世界一。他、がん保険・子供の学資保険等、銀行や保険屋に掛けている。デンマークは、信頼している国に納め、国に委託をしている。日本の人は、今の政治を信頼していないが、それが出来る政治家を選ばないといけない。
- 医療・病院について。病院は、すべて国立である。国民一人ひとりにホームドクターがいる。一人のドクターが 2000~2500 人を担当。毎日 15 人位を診ている。そのドクターは医療のオールマイティで、患者の 80%の処置はホームドクターで OK である。20%が、専門の病院に紹介・推薦状を送り、初めて病院に行く事になる。国立の病院に待合室はない。予約して病院に行く。こうでないと医療費が破綻する。また必要な人・期間のみ入院。入院は、5 日間だけ。
- 日本を見て驚いた。日本みたいな老人病棟・病院はない。老人を長く入院(社会的入院)させていると費用が嵩む。その費用は地方自治体が支払う事になるので、地方自治体としては病院よりも在宅で受け皿を作ったほうが安い。在宅システムを整えた方がよいし、そうせざるを得ない。
- 在宅の定期巡回型システムについて。地域を東西南北のエリアに分けたとします。それぞれの拠点(ステーション)はすべて公立ですから、事業者毎に競争がなく利益を求めようとする事がないので、エリア毎に効率よく回れています。
- 歴史について。1940 年代~酪農の地域のように親との同居の時代があった。50 年代~老人ホーム。60 年代~プライエム(特別養護老人ホームみたいなもの)と在宅介護~『68 年までには在宅介護サービスを確立するように地方自治体(コミュン)に義務化』と 63 年に決定。70 年代~プライエム増設と在宅介護の充実。80 年代~デンマークの国家財政は、赤字に陥る。福祉で首が回らなくなった。高齢者福祉審議委員会(当事者の意見をまとめる。65 歳以上の方が選挙で選ばれる。)発足。その委員会で、高齢者福祉の 3 つ柱ができた。
- それは、「継続性」「自己決定」「自己資源の開発」。どういう事かということ、「自分たちは高齢になったけれどヒトでなくなった訳ではない。施設に入ったばかり

に、事業所の都合で回されている（権利が奪われている）。自分達がやって来た文化・生活等が、ヒトとして出来ていない。」との訴えが審議委員会から出てきた。1982年からこの3つの柱を追求する事でスタートした。

- 「介護職は、『何が出来ないですか？』としか聞いてこない。年を取ったのは事実だが、出来なくなったのは生活環境に問題があるのではないか。」「出来る事をその人らしく、してもらおう。伸ばそう。」という考え方に変える事にした。
- 合わせて介護職の教育改革をした。従来の基礎教育(1年2ヶ月)の介護に“医療”を付け加えて3年の研修期間にして『社会保険介護士』にし直した。1990年から15年かかった。～もちろん公費で。介護者の意識改革をして、お年寄りのその人らしさ・その人の質を高める介護士へ変化して来ている。
- 先ほどの「歴史について」の続き。～80年代、プライエムの建設中止。⇒高齢者センターへ。当日の午後、視察に出かけたのですが、センターに入る方々は、余命があまり少ない方（終末期の方）が入っている。在宅介護が、大きな路線です。
- 2000年から、「在宅から共同体に」集まる動きもある。デンマークには、要介護認定はない。予算を見て費用・経営を管理する「ビジテーター」と「認知症コーディネーター」が、対で高齢者に対応している。どちらも市の高齢者課にいる。ヘルパーは、市のステーションにいる。
- 病院から退院する時には、「〇〇で入院していた□△さんが、退院しますよ。在宅の受け皿は大丈夫ですか？」と市の課に連絡があるとの事。
- 貯蓄について。貯めていると暖房補助やサービス系は自費で払わなければいけない。貯蓄額はマイナンバーで(?)全部知られている。個人負担のものには、補助金が下りて来るが、貯蓄している方には、「ご自分で支払ってください」となる。

#### □) 教育について。

- デンマークでは、「教育の義務」にも力を注いでいる。①0歳～6歳は、社会省(日本で言う厚労省)。②7歳～は、文科省が担当。①の保育園・幼稚園では、社会・コミュニティを学ぶ場。コミュニティのルール、友達・大人との関係を学び。自らのふるまいを考え、社会に出て行くためのベースとなる。「民主主義を作るのは、保育園・幼稚園だ」との事。
- 幼稚園・保育園は無料ではなく、自ら支払う事になっている。しかし、国から児童手当が出ている。保育園幼稚園に行かない子はいない(?)。
- 婦人で、(よっぽどのお金持ちでない限り)「専業主婦」はありえない。一つの家庭で二人の収入がないと暮らしていけない。だから、女性の社会進出が進んでいる。
- 「両親が働きやすい環境が大切。子供を預けられる保障ができています。」「女性が子供を産まなくなると、国が潰れてしまいます。」だから、地方自治体は、

預けられる先を準備しないとイケない。「教育の義務」は、地方自治体に課せられたものと言える。

- そして、若い方たちへ地方自治体が、「うちに住んで下さい。うちの市で働いて下さい。」とテレビ宣伝する事がありますとの事。
- 学生・若者に対する支援も充実している。家にいる学生には、900DKK(13,500円位)。家を出ている学生には、2000DKK(30,000円位)。の支援がある。そして、その支援金で、一つのAPを数人でシェアする事が多い。SUと言います。
- 年金制度について。～①早期年金と②国民年金の制度がある。①は、精神障害・身体障害・仕事で身体を悪くした等。月35万円。②は、65歳からもらえるが、必要ない人はもらわない。千葉さんは、もらわなかったとの事。「必要ない人は『要らない』と言う。←これで、成り立っている。」67歳からは、強制的に降りてくる。月18万円。その他、失業保険もある。
- 「国家予算の約75%は、教育、文化、医療保険、福祉、年金、援助金に使われています。地方自治体の予算配分は、約60%が福祉予算であり、福祉予算の約60%が高齢者福祉に使われています。」と千葉さんの本にありました。



(3)、概論を聞き、思った事。感想。

- 講師から、日本の施設に行つて「その人らしさ」「人の尊厳」と理念を掲げてあつてもそうならない現実を指摘されましたが、転倒し易いお年寄りには、日常生活での足腰の強化・機能低下対応策（手引き歩行等）実施するのではなく、すぐ車いすに乗せている日本の施設のやり方。又、徘徊高齢者に付き合うのではなく、玄関にカギをかける対応等、事業者本位になっている面が脳裏に浮かびます。私たちの蓮華のような小さく、お年寄りと言らいが出来、寄り添えるコンパクト介護施設がいいと思いました。
- 福祉にしても、エネルギー開発（国民的議論の結果、1985年、原発を放棄する決議をデンマーク議会で上げている。）にしても、国民議論をしっかりとしているという感じがしました。
- 消費税も1962年は、9%・・・⇒（30年間かけて）25%へ。国民議論と福祉政策を高めながら、税も上げてきたとの事。一挙には、無理だろうが、日本でも、一つ一つやるしかないのだろう。日本は、すぐの2025年問題を抱えてお

り、国民議論が大切だと思った

- 無駄がない様にした。汚職がない。政治に隠し事がない。そのため、日本みたいに、汚職を明らかにするべく、国会の時間と経費の無駄がない。福島事故など、子供たちに対する責任も取らず、膨大な 21.5 兆円のつけも後世の人達に押し付ける事など、残念に感じた。
- 子供達や将来社会に 計画的に投資をしてきた、又、してきていると思える国でした。



## 高齢者センター視察

四元 悦子



今回、高齢者センター（ローカルセンター、ローゼンデ）を訪問しました。1980年に建てられ、2008年、2009年改築、改造された施設でした。センターはコの字型になっており、コの字型の右の部分に28宅、左に28宅あり、同じ敷地内にケア付き高齢者住宅が100宅ありました。

建物の魅力として、平屋作りであること、人気の一つとして様々な機関があるということ、例えばカフェテリアがあり、理学療法のクリニック、美容院、足のセラピークリニック、トレーニング機関（体操など）、お店などがある。

センターに入られる方々はリハビリ、トレーニングを終えた方、重度の方が生活の場として、また最期の時間をいかに尊厳されながら生活する、いい時間を過ごす場でもあり、人生の終末を迎える場でもある。

ケア付き高齢者住宅に住んでいる方は資源が沢山ある方々で様々な分野が繰り広げられている。ゲームの日などは25人～30人の方々が参加していて、自分たちで自発的に運営している。

月1回の食事会のテーブルセッティングなど自発的に企画している。食事はセンターで食べる方もあり、自分の台所で作る方あり、友達同士で外で食べる方も有り、時々気が向いた時センターで食べる方もあるようです。

施設にはデイセンター（デイサービス）が20席あり、地域で暮らしている方々が通い、その人のニーズに合わせた日程で利用している。可能な限り在宅の期間を伸ばす、又配偶者がいた場合、介護の負担を減らす、これは日本も同じようである。

センターで働く職員は約100名ぐらい。看護師、介護士、保健介護助手、理学療法士、事務職、調理等など。男性の職員を見かけなかったのたずねてみたところ、5人とのことでした。

デンマークでは介護系の男性の職員は少ないとのこと。「日本は男性の職員が多く

ていいですね」と施設長が話していました。

現在、日本でも介護の教育改築がなされており、デンマークの高齢者福祉の3つ柱である①継続性 ②自己決定 ③自己資源の開発、基礎的教育を学んでいます。又、専門性の確立も徐々に進んでいる状況です。

日本の介護の現場では多くの職員が、熱い心で、喜びを持って、多くの高齢者を支えている介護職員も大勢います。施設などは高齢者の生活の場であると同時に、終のすみかであり、介護職員の労働の場でもあります。デンマークはその労働の場、労働環境が整っています。

しかし、日本はどうでしょう？決して労働環境は良いとはいえません。高齢者にとっても、介護者にとっても、労働環境をととのえるのは急務なことではないかと思えます。



## 北フュン市議会議員との会談

鹿児島市議会議員 大森 忍

2017年4月19日



Anja Lund Kristensen（北フュン市議会 社会福祉委員長）からの報告

私の名前はアンナ、ここのコミュンの政治家です。私は社会福祉委員会の委員長を務めています。私たちの持っている予算は、地方自治体の中で一番高い予算を持っています。

私の持っている年齢層は、18歳、つまり成人から亡くなるまでの分野を担当しています。国からの補助を支給されている人たちの分野を担当しています。難民というバックグラウンドもあれば、それとハンディキャップを持っている人。

私の管轄は三つの町に五つの高齢者施設を抱えています。ノーフュンス市は約29500人、私の委員会は7人の政治家たちで成り立っています。うち2人が女性です。委員会が五つあり、委員長が女性なのは、私一人です。そして私は、政治家という職業、役割のほかに自分の美容院を持っています。と同時に私にはもう一つ役割があります。私の夫の事務所で経理の手伝いをしています。

政治家としては、一週間でだいたい20時間から40時間使っています。美容院で実際に髪を切っているのは一週間に一回ぐらいです。夫の経理の手伝いは、二週間に一回ぐらい手伝っています。せっかくの機会ですので、質問を中心に有効的な時間を使いたいと思います。

問 日本では、いま国会で政治家の汚職問題がとりあげられているが、ここでは政治家の汚職問題はないのか。

答 結論から言うと、デンマークでは汚職はありません。というのは、地方議員は特にですが、自分の職業を兼業で持っています。又、州の議員でも国会議員の兼業もできるシステムを持っています。

政治家のポジションというのは、一つひとつの個別のケースには、入り込んではいけない、大きな枠決めというものを決めるのが政治家であって、その政治家の下に、職員が雇われていて、様々なケースは政治家が直接手を加えるのではなく、職員が行うので、職務の分担がはっきり分かれています。先ほどの質問にあった国の土地を安く売りさばくという行為そのものが、タッチできないように仕組みを持っています。

そしてデンマークは、職員の雇用に対する発言権が一切ありません。では誰が雇用しているかと言いますと、デンマークは地方議員の他に、地方を運営している役人で、デレクターという名前がついているヘッドがいます。企業でいえば社長がその役割をしている。つまり政治家のために働いている雇用の権限は、デレクターにあって、政治家には雇用の権限はないシステムになっているので、癒着みたいなものはありません。

それと議会での議論の項目は住民に事前に公開されるシステムを持っています。地方自治体の議会ではインターネットで中継がされていて、ライブで見ることができ、それと同時に、傍聴席がオープンですので、好きな時に議論を傍聴できます。傍聴している人たちが、議論が終わった後、必ず質問の時間というのがとられていて、直接質問した場合には、答えなければいけませんが、それもライブで中継されます。ただ名指して質問するのではなく、答えるのは市長や委員会の委員長です。

問 日常の政治活動は

答 週に一日は、必ず地方自治体を運営しているデレクターとミーティングを持ちます。そして三ヶ月に一回フン島のそれぞれのコミューンの社会福祉委員会の委員長との会談があり、そこでの情報交換もします。

問 フン島はコミューンはいくつあるのか。

答 9（全国で98）

問 ノーフュンス市の社会福祉は、全体の予算の何%占めているのか。

答 約40%はいていると思う。

問 予算の配分は誰が決めるのか。

答 予算を決めるプロセスは、交渉をしながら、話し合いをしながら、最終的に決定

する権限は市長にあるが、その決定にいくまでは、それぞれの委員会での、かけひきも当然ある。

問 デンマークは福祉国家と言われていますが、福祉関係の財政を押さえ込む、というながれはありませんか。

答 国から予算の削減を要求されるのは、効率性を要求されて、毎年、どの分野においても、予算を減らすということではなく、年間 1%の効率性を高めろといわれます。

問 効率性を高めることによって、そこで働く人の労働条件の関係とか、福祉を受けている人の不都合はないのか。

答 むずかしいのは、効率性を高めるということでのお金のセーブもあるけれども、デジタルの導入や様々な技術の導入を図っている。他の都市の委員会との情報交換は、お互いどういうことをやっているのかを知る為にも重要だ。

問 デンマークでは、あまった予算は貯蓄できるのか。

答 次の年に、まわします。

問 北フォン島の社会福祉の予算が一番多い要因は。

答 他と比べて高齢者の数が多いです。

問 社会的保障を受けている、29500 人の中の割合は。

答 このうち 60 歳以上が 6000 人いる。例えば国民年金受給が 67 歳、65 歳から早期年金を受ける人もいる。

問 どうして政治家になったのか。

答 まず市長に「政治の道に、入らないか」と進められた。私は、若い頃からスポーツ系のボランティア活動をやっていたことと、自営業でたくさんの人を知っているというベースがあった。

さらに女性として政治の世界に入るということは難しい、子どもがいたり家庭があったり、両立というのは難しいという中で、挑戦をしてみたかったから。

問 こういうことを、やってみたかったことはなかったのか。

答 ます、ここの自治体の人たちの健康のレベルを上げたい。と同時に、すべての人がどんな状況にしろ、健康についての公平性がないといけないというのが私の持論です。

それと、ここの自治体の企業を活発にしたい、どうしてもオーデンセに流れてしまうという傾向があるので、人を引き止める為には、もっと活発化させないといけないということが、政治家として力を入れているところかな。さらに女性議員を増やすこと。

問 社会福祉委員会の委員長に女性がいることに意味があるとおもいますが。

答 意味はあると思う。女性というのは、数字とか経済とかというよりも、人間的な所、ハートだったりというところで考える素材を持っていると思うし、そうすると社会的な分野に女性がいる大切さというのはあると思う。プラス子どもの分野だったり、精神的な分野などのトップに女性がいるというのは、すごく大きな意味を持っていると私は思います。

私が強調したいのは、男性と女性の同等というのを言っているのではなくて、例えば、子どもの分野に女性だけというのも不思議なものだし、もっと男性が入るべきだと思っているので、女性、女性と言っているわけではなく、男性と女性のバランスの同等というところを強調したいだけです。それと男性の意見を聞くのはとても大事です。女性は感情に流されがちなので、そこをシビアな視点での男性の意見というのもとても大事だと思います。

問 若い人が政治に興味を持つ背景は。

答 若い人が政治に興味を持つのは、政治がこれだけオープンだからだと思います。政治には面白そうという要因がいっぱいあるからだと思います。政治が若者の近くにある、そして民主主義の面白さというのを感じる若者がデンマークには多いと思います。

## 所管

北フュン市議会で社会福祉委員長を担っているアンナ・クリスチャンセン市議と、意見交換できる時間をいただきました。この企画とアンナ・クリスチャンセンに心から感謝いたします。

質問形式での短い時間での意見交換会でしたが、多くのことを学ばされました。

まず第一は、市議会議員の立ち位置がはっきりしていて、個別の政策には、職員が対応し、議員が汚職をするという土壌がないこと。

第二は、第一との関係もありますが、議会がすべてオープンで、議員個人にかかることは、いっさい質問できなかつたり、議会での傍聴では傍聴の人が質問できるシステムには驚きました。(勿論、答弁は市長や委員会の委員長に限られているが)

第三は、女性の進出は、男性と女性の同等ということを求めているのではなく、男性と女性のバランスが必要だという主張は共鳴しました。

第四は、政治が若者の近くにあるということは、デンマークの中で、教育と民主主義が大事にされてきた国だからだというのが実感です。日本でも時間がかかっても取り組んでいく課題だと感じました。



アンデルセン市長と意見交換

香川県議会議員 高田 善徳





昨夜の北フュン島市議会クリステンセン社会福祉委員長に続いて、今日はアンデルセン市長（議長）と意見交換を行いました。基本的にデンマークの地方自治制度は首長と議会の「2元代表制」ではなく、議長が首長を兼ねる「議員内閣制」で、欧米ではこのような制度が多いようです。議員の中で専従職として市長が選ばれ、市から給与（報酬）が支払われます。しかしその他の議員には歳費はなく、日当と旅費のみが支払われ、みんな仕事を持っており、公務員も議員になることができ、その収入で生活します。

日本との大きな違いは、議員で構成される委員会には予算編成権と執行権があり、各委員会に自治体の予算が振り分けられ、委員長は当局の部長のような存在であり、無給であるけれども大きな権限を持つこととなります。

まず、この北フュン島市議会構成についてアンデルセン市長にお聞きしました。

すべての議員は比例代表選挙で選出されるため、必ずどこかの政党に所属していることになり、現在北フュン島市議会は第1党が自由党、社民党が第2党でデンマークの国政と同じような構図だそうです。北フュン島市議会でも国政と同じように自由党を中心とした保守勢力と社民党を中心とした左派勢力の2つの勢力があり、現在自由党を中心とした連立がわずかの差で多数派です。ですから市長が自由党で副市長が連立を組む他の政党です。各委員長も多数派（保守勢力）が総取りしているようで、左派勢力は完全野党のような状況です。势力的には拮抗していて、多党制ですが日本のような1強他弱ではなく、2強他弱のような状態です。

同じ中道勢力で、よく似た政策と思えるのに自由党と社民党は連立を組むことはまずないようです。そこで、自由党と社民党の政策的な差をお聞きしましたが、国政では軍備に関することや外交に関する事など、違いはあるようですが自治体での政策

はほとんど変わらないようです。逆にお互いに連立を組む相手との政策の方に違いがあり、それを強調させないようにしていると言われました。

次に地方分権について、10年前に県を廃止し全国を5つの広域自治体に統合、基礎自治体も三分の一に削減されたことで、北フユン島市への影響と評価についてお聞きしました。

北フユン島市の人口は合併して2万9千人になり、職員が約2千人だそうです。今までの県の仕事（福祉・道路整備・文化施設等）のほとんど市の仕事になり、広域自治体（州）は病院など医療分野に特化して存在するとのことでした。警察についてはもとより国の仕事だそうです。

ですから、市に多くの権限・財源が与えられており、住民に関係する医療以外の部分はほとんど市の仕事ということになります。財源のほとんどは所得（住民）税と資産税です。地域格差の多い、消費税や法人関係税は広域自治体や国の取り分の様です。ですから本当に「独自財源」であり、その使い道は市民がしっかり監視をしているとのことでした。例えば、市議会では一般市民の傍聴者も質問できます。ただ、傍聴席が少ないのでテレビカメラで別室にての市議会の傍聴となり、毎回多くの傍聴者が来るそうです。この根底には税金の使い方の監視はもちろん、国や地域の在り方含めて市民が参加する「参加型民主主義」があります。日本と同じ民主主義でも「間接」か「議会制」かではなく、より「直接」に近い民主主義だと感じました。

日本についてお聞きしましたが、「成功している国」との印象があるとのことですが、現実には良く知らないと言っていたので、日本の政治が腐敗していることを申し上げますと、「デンマークには汚職はないし、すべてオープンにされ隠し事はできない。」とのことでした。

今回は社民党の政治家との交流はできませんでした。思いとして、デンマークでは一昨年の総選挙で社民党政権から離れていますが、退潮気味の欧州での社民主義勢力の中であって、「デンマーク社民党」には頑張ってもらいたいですね。

\*\*\*\*\*

〒765-0033

善通寺市木徳町854番地2

高田良徳

takata@sky.bbexcite.jp (PC)

takatanx@ezweb.ne.jp (携帯)

\*\*\*\*\*



デンマークの北フュン島市にある市議会で市長からレクチャーを受けました。

デンマークには98の地方自治体が存在しています。北フュン島市はその内の一つで3万人に満たない自治体です。

地方議員の選挙は4年に1度行われ、今年の秋(2017年)に全国で一斉に選挙があります。出馬する人は必ず政党に所属して政党から立候補します。市長選挙はありませんが、地方選挙で選ばれた25人の中から市長は選ぶというシステムです。25人に市長になるチャンスは同等にあります。話し合いで決めますが、13票以上の票を得た人が市長になります。

本会議場は円卓で25人の議員席にはマイクがあり、机には政党のシンボルマーク入りのネームプレートがありました。

市長を選ぶときは政党の数、住民からの票数などで検討され、能力、学歴は関係なく、若い人などチャンスもありいい事だと思います。市長だけがフルタイムで、後の議員24人は兼業をしています。

「傍聴席が少ないですね」という視察の仲間の問いに、隣の会場に100席あり、本会議場のカメラでライブ中継されているということでした。

2010年に当選、2期目の市長は3期目も立候補されるとのことでした。以前の職業は農業(酪農)で、デニッシュ・クラウンの銘柄で日本へベーコンを輸出しています。

市長の仕事は、政治的組織化、事務的、秘書的、役所の最高責任者としての務めが

あります。雇用責任者として、雇用、解雇の権限がありますが、細かいケースを直接決定するものではありません。

市長として他の自治体との連携、国の機関とのやりとり、外側の動き、内の動き等正しい判断ができるように、議会に準備が必要です。そして、地方自治体のイベントには必ず出席します。予算は委員会ごとに振り分けられ、委員会に委託されていますが、委員会ではより住民に近いところで決定されます。学校であれば、学校に決定権があり、老人ホームであれば、老人ホームに近いところに決定権があり、役所が決定してしまうのではなく、住民により近いところで決めます。

感想として、天井にはシャンデリア、議場の外は美しい街が額縁の中にあるようで、オープンな市議会というものを目の当たりにできて嬉しいでした。世界一幸福な国デンマークの挑戦は住民が主体であり、汚職が無くオープンな国はお土産のボールペン1本からインターネットで公表され、旅行券、高価な物等、受け取れないラインもあるそうです。株についても、どこの株を、なぜ持っているのか、交通、道路など政治と関係がないか公表され、汚職については国民の中に高い嫌悪感があるそうです。

真の民主主義が国民の中に根付いているのは、長い歴史の中で培われたものだと思います。私たちも小さなことから積み上げて、デンマークに学んだこれをヒントにより良い社会にしていきたいと思います。

<4月20日午後>森の幼稚園[Spirrevippen]視察

デンマークに学ぶ会代表 赤星 貴子





## 1. 児童施設の概要

20年前<親の会>が運動して始めた農家的、自然とふれあう田舎風の「森の幼稚園」

私立（親の会）の幼稚園で、茂木寮から車で10分ほどの自然豊かな場所にあり伸び伸びと過ごせるように広い敷地に子どもの大好きな鶏小屋、羊小屋、うさぎ小屋、畑、樹木の庭（囲って木登りさせない）、土を山のように盛り上げた坂の滑り台等どろんこ遊び用の服で自由に遊んでいた。病気になりにくいそうだ。

月火水木9：00～17：00（金曜日は16：00）、14時からお迎えの親と一緒に帰宅出来る。土・日休みで、羊の世話を土曜日に親がする。常勤の職員は10人（有資格者のペタゴ女性7人、男性1人アシスタント2人）全国での男性職員の割合は、保育2%、幼稚園3%である。6：15～9：00学童の時間3人の職員が朝食の世話をし、12時で帰宅する人や園児の昼寝の時間に事務をする人、勤務時間はそれぞれである。

## 2. 施設の理念、目指すもの

<自然の中で学び、社会性を身につける>

先生は見守り中心で、羊小屋の男先生は庭の草を持って、えさやりに来る子ども達を見ている。坂を箱車で後ろ向きに何度も滑る男の子達の様子や、耕し真っ最中の女の子も先生の後を追ひ、全く自由である。外で大きな声をだしても広いので問題ない。

<「命」を頂く食育は、大事な自然教育である>

動物を通して自分をする。鶏を捌くときは子どもの参加自由である、強制しない。羊の場合は親がする。

卵など昼食に使用する。フルーツもナイフで切り、私達のお茶の時間に提供された。  
<「妥協」の体験を学ぶ>

子どもミーティングで声の出し方、駆け引き、自分の意見と同じでなくとも相手を尊重することを学ぶ。意見を認める。外に自分を発信出来る。相手の気持ちを考える。室内で大きい声を出すと赤ランプがつく。

2歳児の棚に写真と名前が有り、文字を教えなくても自然に分るように工夫してある。

5歳児<自然グループ>は、4つのグループに分け社会のルール・規律を守るため園の外にバスで出かける。園の園いから出ること自分を守る術を知る。半年たつと子どもの意見を取り入れ、男の子の多いグループは車・鉄道ミュージアム・等チャレンジ出来る所肉体、バランス感覚を養える所、古墳・教会・墓・父母の職場訪問・誕生日の子どもの家など、親も連絡なしで自由に参加行動出来る。

「イエスキリスト誕生」劇のために教会で学べるのは、地域的にプロテスタント教信者が多いからであるが、以前リトアニア・エストニアからの労働者の子も劇に参加した。

## 質問

<給料は？>

お金で得られない物がたくさんある。生活指導教諭（ペタゴ）初任給23000 Dkr

<施設の運営費・施設整備費は？>

コミュンから一人に付5500Dkr 親の負担は、1950Dkr

<子どもを叱ることは？>

叱るよりわかりやすく、同僚同士でノーの伝え方を工夫する。危ないと思ったら、グリーンフラッグを出す。

<テレビの幼児番組の影響は？>

ユーチューブなどを見てのまね、タブレット・iPadの影響もある。

<アンデルセン童話の読み聞かせは？>

対話による読み聞かせ、絵を見て何を考えたか？自分のファンタジーとして語り合うこともある。

<虐待は？>

登園した子の様子や、表情から疑いが生じたら性的虐待など関係機関に報告するが、“なぜ子どもが悲しそうにしているのか” 両親に聞くこともある。

<待機数は？>

私立なので断れるがボーゲンセは児童数減で定員を割っている、もし12月頃満杯になったら、公立に行ける。

1999年介護保険制度が始まるという事で、制度が施行されている「ドイツ・北欧介護医療視察の旅」に行き、デンマークで千葉忠夫様が日本へ「先進地福祉国家」デンマークを発信されていることを知った。11月9日にはパネリストとして、ボーゲンセ国民学校と県立北フュン島高等学校の校長先生をお招きして、第1回のシンポジウムを開催。昨年9月桜島で開催したときのパネリスト北フュン市議アンニャロンさんと再会し、アンニャさんを政治へと導いた市長訪問が出来た。市長は政党青年部へ17歳で入党されたが秋に4年に1回の選挙がある。大酪農家で豚肉が日本へ輸出する農産物になっているようだ。

2001年はドイツ・ノルウエー「福祉・労働・平等を考える旅」\*2002年は「人権・福祉・労働を考える旅」でデンマークの社会省・労働省・牛酪農家・労組(SDI)訪問し、フランスでは、アビニオンの農家・市役所・マルセイユ労働裁判所などを訪問した。

今回の旅で、自己決定・自己責任の国デンマークの静かなコペンハーゲン空港に感動し、日本の親切の押し売りの騒音をどうにかしたいと思っている。

第6次海外視察・研修に参加して

2017年4月18日(火)～4月23日(日)

香川県議会議員 竹本敏信





私たちの住む日本は、格差が進行し貧困家庭が増大し将来が不安だらけの社会になっています。しかし、生活大国を目指してきデンマークは、所得の多い人からは税金を多く取り（応能負担）、消費税は25%となっています。そのような意味で税金の使い道に関心があり、使い道がオープンとなっています。選挙の投票率も80%前後。国民年金は65歳以上からもらいたい人はもらえる。67歳から年金が出るようになっています。教育費（高校・大学）についても、生活費援助（自宅外の場合、2000クローネ）が出るようになっています。

高齢者福祉について、高齢者センター・介護居住建物があり、介護住宅の費用は一人用で59㎡、9842クローネ。国民年金の人は、3000クローネ以下と法律で決められています。早期年金（障がい者年金）は恒久的に労働市場で働くことができないと認められた者を対象に、月額約22万円から約26万円が支給される。本当の意味での「ゆりかごから墓場まで」の安心社会となっています。

教育の現状視察として、国民学校（日本の小中学校）を視察しました。1712年近所の貧しい子供たちを教えだしたのがきっかけで出来た学校であり、学校の名前の由来は、最近、地主の奥さん（アナさん）の名前に変わったそうです。

義務教育0年生～9年生で、0～3年生（6歳～9歳）、日本で言う低学年は4～6年生（10歳～13歳）、高学年（中学年）は7～9年生（14歳～16歳）。発達的にも能力的にも合うように学年割りがされていて、年齢と熟度を考えるとその子によっては進行の度合いがあるので何年生は何歳というようにはしてないそうです。学校の価値観・理念 専門性・コミュニティ共同体・ミュージック音楽・クリエイティブ・創造性豊かにを基本の意志4つの言葉を日常的に体験し理解し実感し、そのすべての体験の中の物が4つの価値観・理念が発展していくというのを大切にしています。

視察に訪れた日がスポーツの日となっていました。種目も学校がアレンジしたのではなく生徒会がアレンジ、生徒会はそれぞれのクラス代表となっています、8・9年

生の生徒会メンバーを中心に企画運営実行の権限を持っています。

このようなやり方は、子供たちが中心になり、高学年が低学年に対して、お世話役をすることで子供同士の学びとなっています。また、0年生のクラスと高学年担当クラスとの関わりが重要であり、0年生クラスに対してウエルカムパーティーを企画し、この日に向けていろんな活動を学生も先生たちも協力しています。

学力の検証のやり方は、ナショナルテストがあります。デンマーク語（国語）・数学などであり、ナショナルテストの価値が全国的に広がるごとに国語・数学だけではなく幅広くなっています。テストの使い方は、子供たちのレベルがどこまで行っているか確認する機能ではなく進行度、前回に比べてこの子はどれだけ発展したか見る、あくまでも先生の手引き、教科ではなくナショナルテストウェルビーもある子供たちの状態に対して学校生活が楽しく出来ているかを計測するためのナショナルテストであり、デンマークでは子供たちの状態というのが集中力・学習力につながっているかという研究・分析のために役立てています。

昔は導入されているところとされていないところがあったが、2013年に統一が義務化され、ナショナルテストの全部の情報・数値化（住んでる地域の学習的レベル）されたものがデンマークの教育長のHPに掲載されるようになって、親などが見られるようになっていきます。

義務教育はすべての子ども達に学問のアクセスがなければとの考えに基づいて政策が行われ、それは税金で賄われています。日本も安心して誰もが平等に教育が受けられる国にしなければならないと強く感じました。

